

海軍公報 第三千二百五十七號

昭和十三年二月一日(火)
海軍大臣官房

○ 辭令

海軍大佐 赤穴 敏一

同 後藤 傳治郎

海軍大尉 西本 鈴次郎

海軍特務中尉 土師 鉄太郎

武功調査事務ヲ囑託ス

(各通) 海軍中佐 砥川 三郎

海軍軍醫中佐 渡 邊 龍

海軍軍事普及事務囑託ヲ解キ佐世保海軍人事部ニ於ケル軍事普及事務ヲ囑託ス

海軍主計大尉 田戸 昌造

廣海軍工廠會計部ニ於ケル事務ヲ囑託シ報酬年額九百圓ヲ給ス

海軍特務中尉 細田 勘吾

(各通) 同 小池 鏡太郎

横須賀海軍工廠造兵部ニ於ケル業務ヲ囑託シ報酬年

額七百八拾圓ヲ給ス(以上 前海軍省)

係 長 海軍少將 和田 操

係長補助 海軍中佐 塚田 英夫

係 員 海軍技手 日暮 時郎

(各通) 同 渡邊 四郎

係員補助 同 記録職手 藤田 清

同 二等記録員 磯 欣吾

海軍航空本部製圖工場ニ於ケル昭和十三年臨時海軍

勞働統計實地調査(各頭書ノ通)ヲ命ス(以上 前海

軍航空本部長)

海軍技師 和久田 信忠

在福岡首席監督官ノ命ヲ承ケ服務シ兼テ在八幡首席

監督官ノ命ヲ承ケ服務スヘシ(以上 前海軍航空本部)

○ 雜款

○ 艦裝具事務所設置

驅逐艦等裝具裝具員事務所ヲ株式會社藤永田造船所内ニ

設置シ一月二十七日ヨリ事務ヲ開始セリ

退役海軍機關大尉正八位相川信順一月二十四日靜岡縣志太郡藤枝町市部四三五自宅ニ於テ死去セリ

○正誤 (済)

一月二十九日海軍公報附錄海軍兵學校 機關學校 經理學校生徒採用試験關係諸表中三〇頁末行八段目「一・七四」ハ「一七・四」ノ、三一頁末行末段「三・〇」ハ「〇・三」ノ孰モ誤

海軍公報 第三千二百五十八號

昭和十三年二月二日(水)
海軍大臣官房

○通牒

官房第五二八號

昭和十三年二月二日

海軍省 副官

關係各廳長殿

「ステープル・フアイバー」應用製品ノ

使用獎勵ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通依頼有之候間可然御取計相成

度

(別紙)

一三工第二九八號

昭和十三年一月十日

商工次官 村瀬 直養

海軍次官 山本五十六殿

今般「ステープル・フアイバー」使用獎勵委員會ニ於
テ「ステープル・フアイバー」應用製品ヲ各官衙、學校

海軍公報 第三千二百五十八號 昭和十三年二月二日

四九

ニ於ケル職員、學生、生徒竝ニ諸團體員ニ使用セシムル具體的方策ニ關シ審議ノ結果別紙(一)ノ通決議相成候處右ハ適切ナル方策ト被認且國民精神總動員實施ノ見地ヨリ見ルモ有意義ト被存候ニ付テハ貴省竝ニ所管官公衙、學校及關係諸團體ニ對シ右趣旨ニ基キ可及的速ニ使用普及方ニ關シ可然御高配相煩度此段及依頼候也

各官衙、學校ニ於ケル職員、學生、生徒竝ニ諸團體員ニ對スル「ステープル・フアイバー」應用製品ノ使用獎勵ニ關スル實行方法要綱

一、學生、生徒制服ノ件

學生、生徒ノ制服ハ全「ステープル・フアイバー」ノモノ(外套及帽子ニ付テハ「ステープル・フアイバー」ヲ二割以上成ルベク多量ニ混用セルモノヲ使用スルコト)ヲ可及的速ニ使用セシムルコトニ關シ文部省ニ於テ各關係方面ニ通牒セラレ度キコト但シ綿服ニ付テハ「ステープル・フアイバー」ヲ三割以上成ルベク多量ニ混用セルモノヲ使用スル様取り計

ラハレ度キコト

二、各官廳支給服ノ件

官給服ハ全「ステープル・フアイバー」ノモノ又ハ
鈔クトモ「ステープル・フアイバー」ヲモトノ混用
ニ付テハ二割以上、綿トノ混用ニ付テハ三割以上成
ルベク多量ニ混用セルモノヲ使用セラレ度キコト但
シ原則トシテ戶外勤務ニ従事スル者ニ配給スル外套
及帽子ニシテ特ニ著シク雨露ニ曝サルルモノニ付テ
ハ特別ニ取扱フコト

三、各官廳及學校職員ノ私服ノ件

各官廳及學校、職員ノ私服ハ之ヲ新調スルニ際シ極
力全「ステープル・フアイバー」ノモノ又ハ鈔クト
モモトノ混用ニ付テハ二割以上、綿トノ混用ニ付テ
ハ三割以上成ルベク多量ニ混用セルモノヲ使用スル
様各省ニ於テ勸奨セラレ度キコト

四、各地方公共團體其ノ他ノ團體員ノ被服ノ件

道府縣市町村吏員、國防婦人會、愛國婦人會、男子
青年團、女子青年團、少年團、消防組、防護團等國
ト密接ナル關係ニ在ル團體ノ各團員ノ被服ニ付テモ
關係各官衙ニ於テ三、ト同様ノ勸奨ヲセラレ度キコ
ト

○ 雜 款

○ 出發

佛國 海軍主計少佐 松尾 佐一 三月十九日正午 發 箇崎丸
出張 門司

海軍公報

第三千二百五十九號

昭和十三年二月三日(木)

海軍大臣官房

○通牒

水第三〇一〇號

昭和十三年二月一日

水路部

各廳御中

依託印刷ニ關スル件通知

本年度豫算ヲ以テ支辨セラルベキ依託印刷ノ受理ハ來
二月十日當部着ノ分ヲ以テ打切リト致候條御了承相成
度

追テ其ノ後到着ノ分ハ明年度豫算ヲ以テ整理差支ナ
キモノニ限り受理可致候

○辭令

故海軍中佐榑原憲三妻 榑原 千代

昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金貳千八百圓ヲ給與
ス

昭和十二年海軍省告示第十五號ニ依リ特ニ金六百圓
ヲ賜フ

故海軍少佐小林宜光妻 小林 ミツル
昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金貳千參百圓ヲ給與
ス

昭和十二年海軍省告示第十五號ニ依リ特ニ金五百圓
ヲ賜フ

故海軍大尉貴志金吾父 貴志 徳松
昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千九百圓ヲ給與
ス

昭和十二年海軍省告示第十五號ニ依リ特ニ金八百圓
ヲ賜フ

故海軍中尉甲斐正利父 甲斐 熊雄
昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千六百圓ヲ給與
ス

昭和十二年海軍省告示第十五號ニ依リ特ニ金六百圓
ヲ賜フ(以上請海軍省)

○ 雜 款

○工術練習生採用試験問題發送
第七十期工術練習生採用試験問題ハ二月二十八日左記
ノ通發送濟ニ付未着ノ向又ハ別ニ必要ノ向ハ至急御通
知相成度

記

- 一、單獨試験施行豫定ノ各部ニハ直送セリ(但シ第一
第二艦隊所屬艦船ニシテ所在ヲ同ジウスルモノハ一
括取纏當該副官宛送付)
- 一、聯合試験用ノモノハ各海軍人事部首席部員及各要
港部副官宛送付但シ旅順要港部所屬艦船ニハ直送
- 一、聯合試験參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更ノ爲
聯合試験參加不能ノ向ニ對スル分トシテ前記諸官宛
單獨試験問題若干部數送付シ置ケリ

(海軍工機學校)

豫備役海軍機關大佐正五位勳三等横山善助昨二日
卒去、本三日午後一時ヨリ同二時迄東京市目黒區
平町二丁目宅ニ於テ佛式ニ依リ告別式執行

海軍公報 第三千二百六十號

海軍大臣官房

昭和十三年二月四日(金)

○通牒

官房第五五三號ノ三

昭和十三年二月四日

海軍省副官

各廳長殿

侍從武官被差遣ノ件通牒

今般狀況實視ノ爲侍從武官山澄貞次郎ヲ旅順要港部、
駐滿海軍部へ被差遣候趣侍從武官長ヨリ通牒有之候
追テ同官ハ來二月十三日東京發三月五日歸京ノ豫定

官房第五五七號

昭和十三年二月四日

海軍省副官

各廳長殿

支那方面勤務軍人宛鐵道小荷物(私用)

ノ取扱ニ關スル件照會

首題小荷物ハ從來佐世保驛留置トシテ送付セララルモ

ノ相當多數ニ上リ之ガ處理上不都合ヲ生ズルニ付自今
左記ノ通處理ノコトト致度部内一般ニ周知方可然取計
相成度

記

- 一、發送者ハ發送驛ニ對シ宅披ノ指定ヲ爲スコト
- 二、宛先ハ「佐世保海軍港務部氣付」受取人所轄名官
氏名」トスルコト
- 三、佐世保海軍港務部ハ適當ナル官船便ニ托送スルコ
ト

海人第四四號

昭和十三年二月四日

海軍省人事局長

各所轄長殿

職員宿所ノ件照會

海軍准士官以上履歷書及身上取扱規則第十一條ニ依リ
部下職員ノ宿所二月十五日迄ニ通報相成度

○ 辭 令

故海軍少佐 岡島威妻 岡島登志子

(通各)

同 川口茂彦父 川口 徳松
同 坂本以文妻 坂本 榮子

昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金貳千參百圓ヲ給與ス

大正八年勅令第三百七十一號ニ依リ金壹萬圓ヲ給與ス(附海軍省)

(各通)

海軍主計兵曹長 大矢 岳夫

同 畑井友四郎

海軍航空本部ニ於ケル部外航空指導ニ關スル事務ヲ囑託ス

但シ部内限判任官ヲ以テ待遇セラル(附海軍航空本部)

○ 雜 款

○ 試驗問題發送

第六十五期高等科水雷術魚雷
第九期高等科水雷術航空魚雷
第六十五期高等科水雷術機雷
練習生採用試驗問題
(昭和十三年三月十五日試驗施行)

右二月一日左記ノ通發送濟未着ニシテ必要ノ向ハ請求セラレタシ

記

一、聯合試驗施行用ノモノハ各海軍人事部長及各要港

部參謀長(舞鶴及馬公ハ各防備隊司令)ニ送付

二、單獨試驗施行豫定ノ各部ニハ直送ス

三、行動共ノ他ノ都合ニ依リ臨時所要ノ分トシテ單獨

試驗用問題若干部數前記諸官宛送付シ置ケリ

(海軍水雷學校)

○ 宿所就電話

海軍技術研究所會計課長海軍主計大佐 乾利隆宅(東京市目黒區平町三二四)

荏原 六〇七一番

○ 海軍會計法規類集第十二回改正加除紙本月三日配布ヲ了セリ

(海軍省經理局)

海軍公報 第三千二百六十一號

昭和十三年二月五日(土)
海軍大臣官房

○令達

官房第五八九號

來十一日紀元節ニ付在京諸官ハ當日左ノ通心得ベシ

昭和十三年二月五日

海軍大臣

一、親任官同待遇、勅任官同待遇

午前九時三十分賢所參集所ニ參集 御祭典ニ參

列後參賀

一、奏任官同待遇並ニ判任官以下ニシテ位勳ヲ有スル者

正午ヨリ午後一時迄ニ參賀參拜

一、位勳ヲ有セザル判任官同待遇

午前十時本省ニ參賀、午後一時ヨリ同二時迄ニ

參拜

一、服 裝

正裝、大禮服
但シ本省ニ參賀ノ向ハ通常服

(備考)

紀元節宴會ノ儀ハ行ハセラレズ

○通牒

經給第八號

昭和十三年二月五日

海軍省經理局長
海軍省醫務局長

關係各廳御中

救護員ノ治療ニ關スル件通牒

日本赤十字社戰時救護規則ニ依リ衛生勤務幫助ノ爲海軍ノ衛生機關等ニ派遣セラレタル日本赤十字社救護員ニシテ服務中傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル場合ハ該規則第五十一條ニ依リ海軍ニ於テ治療スベキ義ニ有之候

(參照)

日本赤十字社戰時救護規則

第五十一條 救護員服務中傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキハ陸海軍ノ治療ヲ受ク

○ 辭 令

海軍技手 山口 清
第五課勤務ヲ免シ第二課勤務ヲ命ス(前水路部)

○ 雜 款

○學生入隊
海軍練習航空隊特修科學生(昭和十二年官房第三二六
五號ニ依ルモノ)ハ三月八日始業式ニ付其ノ前日迄ニ
入隊セシメラレ度
(横須賀海軍航空隊)

海軍公報 第三千二百六十二號

昭和十三年二月七日(月)
海軍大臣官房

○ 辭令

(各) 故海軍兵曹長竹内時雄子 竹内 正郎
(通) 故海軍兵曹長清水金治妻 清水 フミエ

昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千參百圓ヲ給與ス
昭和十二年海軍省告示第十五號ニ依リ特ニ金貳百圓
ヲ賜フ

(各) 故海軍一等兵曹清留清熊母 清留 ツナ
(通) 故海軍一等兵曹黒木昌喜父 黒木 七次郎

昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千貳百圓ヲ給與ス
昭和十二年海軍省告示第十五號ニ依リ特ニ金貳百圓
ヲ賜フ

(各) 故海軍二等兵曹河野松夫父 河野 六兵衛
(通) 故海軍二等兵曹徳永常男母 徳永 美佐遠

昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千百圓ヲ給與ス
故海軍三等兵曹酒見公平父 酒見 勝次
故海軍三等兵曹石井厚母 石井 カク

(通各)

昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千圓ヲ給與ス

故海軍三等兵曹依迫敏父 依迫 清二	故海軍三等兵曹永田廣太郎母 永田 スソ	故海軍三等兵曹木場利一母 木場 リキ	故海軍三等兵曹三木重顯母 三木 タカノ	故海軍三等兵曹田吉正義父 田吉 彌市郎	故海軍三等兵曹後藤喜夫父 後藤 喜八	故海軍三等兵曹高橋牛雄父高橋次郎左衛門
故海軍三等兵曹松崎義治妻 松崎 紉恵	故海軍三等兵曹宮本福藏父 宮本 兼次	故海軍三等兵曹増田利雄父 増田 榮次郎	故海軍三等兵曹平塚清父 平塚 一	故海軍三等兵曹野村龍平父 野村 勘藏	故海軍三等兵曹深田外二父 深田 外三吉	故海軍三等兵曹松本歳雄父 松本 新市
故海軍三等兵曹小林升父 小林 銀一						

海軍公報 第三千二百六十二號 昭和十三年二月七日

(通各)

昭和二一二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千圓ヲ給與ス
 故海軍三等兵曹松本武雄母 松本もと
 故海軍一等水兵滿井雲雄父 滿井 槌藏
 故海軍一等水兵田中峯雄父 田中 彌三郎
 故海軍一等水兵中島武一父 中島 滿三
 故海軍一等水兵江藤忠幸父 江藤 菊松
 故海軍一等水兵佐保素吉母 佐保 登喜
 故海軍一等水兵東 惣一父 東 芳太郎
 故海軍一等水兵大下正義父 大下 三一
 故海軍一等水兵安田善一母 安田 たつ
 故海軍一等水兵鬼頭貫一父 鬼頭 仙太郎
 故海軍一等水兵岸田 猛父 岸田 久兵衛
 昭和二一二年勅令第五十七號ニ依リ金九百圓ヲ給與ス
 故海軍二等水兵岡 芳住子 岡 武
 故海軍二等水兵上野文男父 上野 今朝平
 故海軍二等水兵野村傳雄父 野村 岩太郎
 故海軍二等水兵古賀正喜父 古賀 龜太郎
 故海軍二等水兵長野岩五郎父 長野 茂平
 故海軍二等水兵中村 昇父 中村 喜次郎
 故海軍二等水兵馬場兼男父 馬場 熊藏
 故海軍二等水兵福山實良父 福山 辰巳

(通各)

故海軍二等水兵增田 制父 増田 靜馬
 故海軍二等水兵前迫新藏父 前迫 新藏
 故海軍二等水兵高橋七次父 高橋 七郎
 故海軍二等水兵目 八十吉母 目 タツ
 故海軍二等水兵竹島三郎妻 竹島 シズ
 故海軍二等水兵前川熊義父 前川 官三郎
 故海軍二等水兵高橋辰江父 高橋 關次郎
 故海軍二等水兵中山傳美父 中山 忠雄
 故海軍二等機關兵加世田寅七父 加世田 卯三造
 故海軍二等機關兵島田義憲母 島田 ヨシ
 故海軍二等機關兵井上國廣父 井上 徳三郎
 昭和二一二年勅令第五十七號ニ依リ金九百圓ヲ給與ス
 故海軍二等水兵安藤保一父 安藤 廣三郎
 昭和二一二年勅令第五十七號ニ依リ金九百圓ヲ給與ス
 昭和二一二年海軍省告示第十五號ニ依リ特ニ金五百圓ヲ賜フ(以上皆海軍省)
 海軍大佐 須賀 彦次郎
 北平及天津海軍駐在員並出張員事務所ニ要スル經費支拂ノ爲臨時資金前渡官吏ヲ命ス
 海軍主計中佐 堀 直江

臨時資金前渡官吏ヲ免ス(以上附支出官海軍省經理局長)

○ 雜 款

○ 滯在地變更
待命海軍中尉榑田七郎ハ佐世保ヨリ横須賀へ滯在變更ノ義二月五日認許セラレタリ

退役海軍少將從四位勳三等功四級金子滿喜本月五日卒去、明八日午後三時廣島市田中町四三自宅ニ於テ佛式ニ依リ葬儀執行

○ 正 誤
本月一日辭令欄中「土師鉄太郎」ハ「土師鉄次郎」ノ誤

海軍公報 第三千二百六十三號

昭和十三年二月八日(火)
海軍大臣官房

○ 辭令

○昭和十三年二月八日

任海軍書記

勳七等 下谷 秀義

給月俸七拾圓

任海軍書記

石村 正治

給十級俸

海軍書記 下谷 秀義

佐世保海軍軍需部附ヲ命ス

同 石村 正治

横須賀海軍航空隊附ヲ命ス

故海軍一等兵曹松本文友弟 松本 徹乘

昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千貳百圓ヲ給與ス

昭和十二年海軍省告示第十五號ニ依リ特ニ金貳百圓ヲ賜フ

故海軍二等兵曹安藤清長父 安藤 清吉

昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千百圓ヲ給與ス
故海軍三等機關兵曹山本富記母 山本 シゲヨ
昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千圓ヲ給與ス
各) 故海軍一等水兵西村玉留母 西村 きの
(通) 故海軍一等機關兵坂上茂治父 坂上 喜伴
昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金九百圓ヲ給與ス
(以上簡海軍省)

○ 雜款

退役海軍主計少佐正六位勳五等馬場金吾昨十二年
十二月十三日大連市初音町二五四自宅ニ於テ死去
セリ

海軍公報

第三千二百六十四號

昭和十三年二月九日(水)
海軍大臣官房

○辭令

海軍艦政本部勤務海軍技手 大谷 忠吉
横須賀海軍工廠勤務ヲ命ス(前海軍省)

神田 久太郎

旅順要港部ニ於ケル柔道教員ヲ囑託ス
但シ報酬年額貳百四拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇
トス(先同)

○雜款

○出發

佛國 駐在 海軍造船大尉 遠山 光一
三月十五日 東京發 宮崎丸
同 十七日 神戸發

○宿所並電話

海軍省軍需局第三課長海軍主計大佐白神若太郎宅(麻
布區市兵衛町二ノ六)
赤坂 (48) 二七〇六番

海軍公報 第三千二百六十四號 昭和十三年二月九日

海軍公報 第三千二百六十五號

昭和十三年二月十日(木)
海軍大臣官房

○ 辭 令

昭和十三年二月十日

(各通)

勳八等 村田 昌穂
同 宮本 豊

任海軍通譯
給五級俸

兼 田 稔

任海軍通譯
給六級俸

(各通)

北島 茂雄
藤野 允夫
永谷 止
藤井 清司
後藤 正夫
有賀 敬助

任海軍通譯

給七級俸

任海軍技手

給五級俸

任海軍技手

給月俸七拾圓

(各通)

任海軍技手
給七級俸

(各通)

任海軍技手
給月俸六拾圓

荒谷 俊司

毛利 義行

川田 彰

齊藤 惣吉

青木 壽

伊藤 善次郎

北川 吉夫

松本 銀之助

松永 常夫

海軍通譯 村田 昌穂

海軍公報 第三千二百六十五號 昭和十三年二月十日

(通各)

第三艦隊司令部附ヲ命ス

海軍技手

- 同 宮本 豊
- 同 兼田 稔
- 同 北島 茂雄
- 同 藤野 允夫
- 同 永谷 止
- 同 藤井 清司
- 同 後藤 正夫
- 同 有賀 敬助

(各通)

部内限奏任官待遇トス
海軍省建築局勤務ヲ命ス
吳海軍工廠勤務ヲ命ス
佐世保海軍工廠附ヲ命ス

- 同 今井 芳之助
- 同 中田 泰三
- 同 大原 丈一
- 同 須山 智
- 同 冥加 初太郎
- 同 苗加 孝一
- 同 中島 長一
- 同 渡邊 梅次郎
- 海軍技手 荒谷 俊司
- 同 毛利 義行
- 同 川田 彰

(各通)

海軍省建築局勤務ヲ命ス(以上皆海軍省)

- 同 齊藤 惣吉
- 同 青木 壽
- 同 伊藤 善次郎
- 同 北川 吉夫
- 同 松本 銀之助
- 同 松永 常夫

○ 雜 款

○宿所並電話
軍司令部出仕海軍大佐草鹿龍之介宅(澁谷區長谷戸町四六)

青山(36) 二九五〇番

支那事變戰死者故海軍少佐大林法人外二十二名ノ合同海軍葬儀ヲ來十五日午前九時三十分吳軍港第一練兵場ニ於テ佛式ニ依リ執行

海軍公報 第三千二百六十六號

昭和十三年二月十二日(土)
海軍大臣官房

○辭令

佛國駐在員監督ヲ免ス
海軍大佐 山田 定義
佛國駐在員監督ヲ命ス(以上皆海軍省)
海軍中佐 澄川 道男
馬公要港部附海軍技手 岡本 忠太郎
佐世保海軍工廠附ヲ命ス(三訂同)

○雜款

○功績關係事項等ノ照會ニ關スル件
轉勤者等ニ對スル今次事變功績關係事項等ノ照會ヲ海軍公報ニ掲載方依頼ノ向有之候處此ノ種事項ノ公報掲載ハ取計ハザニ付關係ノ向ニ直接照會セララル様致度
(海軍省 副官)

○試驗問題發送
第六十期高等科電信術練習生採用試驗問題二月九日左記ノ通發送濟ニ付未着ニシテ必要ノ向ハ至急御通知相

成度

記

- 一、聯合試驗施行用ノモノハ各人事部長及各要港部參謀長(舞鶴ハ防備隊司令)宛送付
- 二、試驗當日出動艦船用トシテ各人事部長宛若干部數送付
- 三、單獨試驗施行豫定ノ各部ニハ直接送付
(海軍通信學校)

海軍教授從五位勳六等 金森 齊本月八日卒去、本月十日海軍機關學校ニ於テ佛式ニ依リ告別式執行セリ

0970

海軍公報 第三千二百六十七號

昭和十三年二月十四日(月)
海軍大臣官房

○ 辭 令

木村浩二朗

軍令部ニ於ケル事務ヲ囑託ス
但シ報酬年額六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス
(付二條八項海軍省)

海軍公報 第三千二百六十七號 昭和十三年二月十四日

六九

海軍公報

第三千二百六十八號

海軍大臣官房

昭和十三年二月十五日(火)

○通牒

航本第六四五號

昭和十三年二月十四日

海軍航空本部

各應御中

航空參考資料輯録頒布ニ關スル件照會

近ク首題輯録第十三號ヲ刊行個人要望者ニモ頒布可致ニ付左記御承知ノ上希望ノ向ハ各應毎ニ取纏メ當部へ御通知相成度

記

一、代 價 一部四十五錢(送料共)

一、刊行豫定期日 二月末日

一、申込期限 二月二十五日

一、送 金 代金ハ申込ト同時ニ海軍航空本部

總務部宛送付ノコト

(振替口座東京五一二二九番)

○辭令

○昭和十三年二月十五日

任海軍書記兼海軍錄事

給九級俸

藤田鐵五郎

横須賀鎮守府附ヲ命ス

海軍書記 藤田鐵五郎

横須賀鎮守府軍法會議附ヲ命ス

海軍錄事 藤田鐵五郎

米國へ出張ヲ命ス

海軍按手 堀内武夫

廣海軍工廠航空機部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

黒川成巳

海軍航空廠科學部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

前川力

内村 竹雄

海軍航空廠飛行機部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇

トス

星 宮 啓

海軍航空廠發動機部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇

トス

狼 信 平

海軍航空廠科學部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇

トス

神門 芳夫

海軍航空廠發動機部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇

トス

北野 多喜雄

海軍航空廠飛行機部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇

トス

(各通)

仙頭 一郎

海軍航空廠發動機部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇

トス

伊藤 公正

海軍航空廠飛行機部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇

トス

河嶋 謙三

海軍航空廠飛行機部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇

トス

中村 慶次郎

海軍航空廠科學部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇

トス

海法 泰治

海軍航空廠飛行機部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇

トス

(各通)

田中 十三

海軍航空廠飛行機部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇

トス

今中 安直

海軍航空廠科學部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇

トス

(各通)

室賀 伸太郎
辻田 斐後前
神谷 喜久壽

海軍航空廠兵器部ニ於ケル業務ヲ囑託ス
但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇
トス(以上ヲ初海軍省)

○ 雜 款

退役海軍機關中佐從五位勳四等馬場惟夫本月十三
日卒去、本十五日午後三時ヨリ同四時迄大阪市住
吉區天王寺町鐵道官舎(第三十七號官舎)ニ於テ
神式ニ依リ告別式執行

退役海軍造兵中佐從五位勳三等加茂下良躬一月十六
日卒去、明十六日午後三時ヨリ同四時迄東京市豊
島區駒込町染井齋場ニ於テ佛式ニ依リ告別式執行

退役海軍主計中尉從七位石井 潔本月十三日死去、
本十五日午後二時ヨリ同三時迄東京市麻布區筈町
長谷寺ニ於テ佛式ニ依リ告別式執行

◎學生採用考試施行期日

海軍砲術學校、海軍水雷學校、海軍通信學校高等科
學生並ニ海軍航海學校航海學生、運用學生

考試科目	考試施行期日	時 限	記 事
雜問(其ノ一)	昭和十三年五月 二十三日(月)午前	三時間自一〇八〇〇	參考書ヲ許 サズ
雜問(其ノ二)	昭和十三年五月 二十三日(月)午後	三時間自一三〇〇〇	
普通學	昭和十三年五月 二十四日(火)午前	四時間自一〇八〇〇	辭書ヲ許ス
數 學			
英獨(德) 文和譯			

海海海海
軍軍軍軍
航通水砲
海信雷術
學學學學
校校校校

海軍公報 第三千二百六十九號

昭和十三年二月十六日(水)
海軍大臣官房

○辭令

營林局技師 原 耕太
大湊要港部ニ於ケル植林ニ關スル事務囑託ヲ解ク

同 平岡 保
大湊要港部ニ於ケル植林ニ關スル事務ヲ囑託ス(以上同海軍省)

海軍主計大佐 足立 又彦

中華民國在勤武官、駐在員並ニ出張員事務所ニ要スル經費支拂ノ爲臨時資金前渡官吏ヲ命ス

同 前田 茂

臨時資金前渡官吏ヲ免ス(臨時支出官海軍省經理局長)

田島 留太

海軍省ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(臨時海軍省軍務局長)

○雜款

○命名式舉行

左記ニヨリ報國號飛行機ノ命名式ヲ舉行セラル

記

一、報國號飛行機番號名稱機種及獻納者

報國號	名稱	機種	獻納者
第一九一號	第一愛媛號	九五式水上偵察機	愛媛縣々民
第一九二號	第二愛媛號	九四式水上偵察機	

二、日時(開式時刻)二月二十日午前十一時

三、場所 愛媛縣溫泉郡三津濱町梅津寺飛行場

(海軍省副官)

海軍公報

第三千二百七十號

昭和十三年二月十八日(金)

海軍大臣官房

○通牒

艦本第二五一二號

昭和十三年二月十七日

海軍諸例
則登載

海軍艦政本部總務部長
海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

內國監督官監督受持區域中改正ノ件通知

昭和九年四月一日艦本第三五六五號通知首題ノ件中左記ノ通改正相成候

一、東京ノ項受持區域ノ欄「神奈川縣(橫濱市橋樹郡、都筑郡及東京螺子製作所)」、「ヲ」神奈川縣(橫濱市、橋樹郡都筑郡及東京螺子製作所)並ニ日立製作所戸塚工場、松下乾電池辻堂工場)、「ニ改ム

二、浦賀ノ項受持區域ノ欄「神奈川縣(橫濱市、橋樹郡、都筑郡及東京螺子製作所ヲ除ク)」、「ヲ」神奈川縣(橫濱市、橋樹郡、都筑郡及東京螺子製作所)並ニ

日立製作所戸塚工場、松下乾電池辻堂工場ヲ除ク)ニ改ム

三、大阪ノ項受持區域(内區)ノ欄「彦根町地方ヲ「彦根市地方」ニ改ム

四、名古屋ノ項受持區域(内區)ノ欄「桑名町地方」ヲ「桑名市地方」ニ改ム

(諸例則卷一、一四〇ノ二頁參照)
(艦政法規集五二八頁參照)

○雜款

○米國特務艦「ゴールド、スター」來航豫定

地名 着 發

三	池	四月十日	四月十二日
橫	濱	十五日	二十五日

○卒業式ニ參列ノ件照會
來三月十六日日本校第十六期選修學生修業證書授與式舉行相成候ニ就テハ勤務ニ差支ナキ限リ右修業者參列方御配慮相成度

海軍公報 第三千二百七十號 昭和十三年二月十八日

七七

0976

海軍公報 第三千二百七十號 昭和十三年二月十八日

七八

追テ三月十日迄ニ當日參列可能者ノ官氏名御通知ヲ
得度

(海軍兵學校副官)

○昨十七日公報發行セズ

0377

海軍公報

第三千二百七十一號

昭和十三年二月十九日(土)

海軍大臣官房

○ 辭令

横須賀海軍工廠工員教育業務ヲ囑託ス
(附三) 鶴見 憲三
 但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇
 トス(托出海軍省)

○ 雜款

○宿所竝電話
 航空局技術部長海軍少將櫻井忠武宅(杉並區高圓寺六
 ノ六六八)
 中野 五五三五番

海軍公報 第三千二百七十一號 昭和十三年二月十九日

(附錄六頁添)七九

海軍公報 附録

昭和十三年二月十九日(土)
海軍大臣官房

○ 雜 款

○普通圖書

昭和十二年十二月中納庫セル普通圖書左ノ如シ

和 漢 書

A 〇〇〇 兵 書

西郷隆盛 東亞構兵策 川崎久敏編 昭和十
桐野利秋 東京朝日書房 一〇四四五

近代戦とプロバガンダ 小松孝彰著 昭和十二
東京春秋社 一〇一〇一

A 一〇〇 古代兵法

鈴木春山兵學全集 佐藤堅司編 昭和十二
東京八紘社 一〇五三

A 五五三 燃 料

最燃料の知識 吉村萬治著 昭和十二
東京新光社 一〇七〇

B 三〇〇 兵 器

日本刀の研究(前 後編) 海軍大佐倉田七郎著 昭和十二
東京偕行社 一〇五〇

B 四〇〇 機 關

内燃機關邦譯文獻集 富塚 清編 昭和十二
東京 養賢堂 P 三六三

第一卷 自第十四號
至第十七號

D 一〇〇 歷 史

世界文化史大系 新光社編 昭和十二
東京 新光社 九七九

第四卷 古代支那及びインド

D 一三四 西洋史―獨逸

獨逸精神史研究 邦ルヘルム・デイルタイ原著 昭和八
細谷徳三郎 共譯 九六四
富岡益五郎 政經書院

D 二二〇 世界大戰戰史

世界大戰概史 同附圖 陸軍少兵大尉川原貞男著 昭和十二
東京 偕行社 一〇五四

E 一二〇 外 交 史

中國に於ける外國人の地位 入江啓四郎著 昭和十二
東京 東京堂 一〇四三

蹇 蹇 錄 乾 坤 陸奥宗光著 明治二十八
一〇五六

E 三八〇 各 國 問 題

海軍公報 附録

朝日時局讀本 東京朝日新聞社編 昭和十二 東京 東京朝日新聞社	一九五六	G二〇〇 經濟	戰争と日本經濟力 高橋龜吉著 昭和十二 東京 千倉書房	一九六七
第九卷 國防と軍備		物の經濟 太田正孝著 昭和十二 東京 中央公論社	一九七二	
國際時事解説 外務省情報部編 昭和十二 東京 三笠書房	二〇五二	G二二三 爲替	外國爲替換算表 津村宏一編 昭和八 東京 厚生閣	二〇五九
E三八三 各國問題—支那		G二二三 物價	物價變動要覽 物價問題調査會編 昭和十二 東京 千倉書房	二〇四七
〔中華民國〕冀東 東亞人文研究所編 昭和十二 東京 東亞人文研究所	P 元九	H二二一 貿易	各國通商の動向と日本 外務省通商局編 昭和十 二年版 東京 日本國際協會	二二四
日本は支那を如何する 中野正剛著 昭和十二 東京 育生社	二二〇八	H三〇〇 工業	昭和十二年版 日本紙業總覽 王子製紙株式會社販賣部調査課編 昭和十二	P 二九三
E五二〇 各國國情—支那		合理的印刷註文の知識 山中弘治著 昭和十二 東京 印刷の知識社	海運政策論 堀川武夫著 昭和十二 東京 海風閣出版部	P 二九四
海賊の南支那 安藤盛著 昭和十一 東京 昭森社	二二五五	H二四一 運輸	H二二〇 統計諸表 内閣統計局編 昭和十二 東京 統計協會	P 二九四
F〇二〇 宮中關係				
皇室制度史 帝國學士院編 昭和十二 東京 帝國學士院	二二六二			
F二二一 日本憲法				
日本憲法制定史講 渡邊幾治郎著 昭和十二 東京 千倉書房	二二六九			
F二三〇 立法				
第一回議會乃至 衆議院先例彙纂 衆議院事務局編 昭和十二	P 元〇			
第七十回議會 衆議院委員會先例彙纂 衆議院事務局編 昭和十二	P 二九二			
第七十回議會 衆議院事務局編 昭和十二	P 二九三			
F一四〇 行政				
關東局施政三十年史 關東局編 昭和十二	P 二九三			

昭和十一年 日本外國貿易年表 大藏省編 昭和十二年 P 三九四三

JOOO 科學

萬有科學大系 新光社編 東京新光社 自昭和八

第一篇 自然科學篇

第一卷 天體と宇宙

第二卷 地球の歴史

第三卷 人間

第四卷 植物の分類

第五卷 動物

第六卷 海の生物

第七卷 食物及栄養

第八卷 結晶と岩石

第九卷 物理學

第十卷 化學

第十一卷 藥學

二〇〇三

第十卷 海洋氣象

第十一卷 地理學

第十二卷 人類及人種

第一篇 應用科學篇

第一卷 化學工業

第二卷 電氣化學工業

第三卷 化學工業

第四卷 染料と染織

第五卷 農學

第六卷 家畜

第七卷 林業

第八卷 水産

第九卷 鑛業

第十卷 窯業

第十一卷 印刷

第十二卷 活版印刷

第十三卷 磁氣と電氣

第十四卷 機械

第十五卷 電信電話

第十六卷 ラヂオ

第十七卷 庭園と公園

第十八卷 都市計畫

第十九卷 築港

第二十卷 築路

第二十一卷 橋梁

第二十二卷 上水及下水

野滿隆治著

佐々木定一著

網島龍藏著

永井彰一著

西澤俊一著

内田孝著

友田宜平著

菱山乙平著

橋本重平著

上原敬二著

内田惠太郎著

宮崎虎一郎著

永井彰一著

鎌田彌壽治著

石動弘著

矢野道也著

三枝彦雄著

内田三浩著

東條一著

稻田三之助著

岸田日出刀著

田村治剛著

石原憲治著

鈴木雅七著

成瀬七武著

草間勝太郎著

海軍公報 附録

第十三卷	水力電気 カンリッソ發動機	野口 誠著	二二〇九
第十四卷	航空機 自動車	内藤 邦策著	二二〇九
第十五卷	鐵道 兵器	内藤 邦策著	二二〇九
第十六卷	船舶 探偵科學	米澤 政治著	二二〇九
第十七卷	醫學 衛生學	青木 武藏著	二二〇九
第十八卷	探偵科學 體育學 實驗心理學	高田 直樹著 山本 直樹著 高田 直樹著	二二〇九
圖表學綱領	谷村豊太郎編 東京丸善株式會社	吉田 惟茂著	二二〇九
J 三二二 造船	川崎造船所編 神戶川崎造船所	川崎造船所編	二二〇九
J 三二〇 電氣工學	杉山 清著 東京修教社書院	杉山 清著	二二〇九
地中電線路	各務米次郎著 東京厚生閣	各務米次郎著	二二〇九
各外線工事 上、下卷	各務米次郎著 東京厚生閣	各務米次郎著	二二〇九
K 一四〇 倫理	山口齋常著 東京岩波書店	山口齋常著	二二〇九
仁ノ研究	東京外國語學校一覽 東京外國語學校編	東京外國語學校編	二二〇九
K 三六〇 學校	東京外國語學校一覽 東京外國語學校編	東京外國語學校編	二二〇九

昭和十二年度 東北帝國大學一覽	東北帝國大學編 昭和十二年	P 二六四九
K 四三六 共產黨	高谷肇著 東京大東出版社	二二〇六
コミンテルンは挑戦する	高谷肇著 東京大東出版社	二二〇六
M 一〇〇 圖書館關係	林 靖一著 昭和十二年 東京大阪屋號書店	二二〇六
圖書保管法 發刊、亡失篇	林 靖一著 昭和十二年 東京大阪屋號書店	二二〇六
M 一三〇 目錄	東京商工會議所編 昭和十二年 東京東京商工會議所	二二〇六
〔東京商工會議所〕和漢圖書分類目錄	東京商工會議所編 昭和十二年 東京東京商工會議所	二二〇六
M 二〇〇 叢書	アルス機械工學大講座 東京アルス 昭和十二年	二二〇六
アルス機械工學大講座	東京アルス 昭和十二年	二二〇六
第十八卷 高等數學概要	竹内順三郎著	二二〇六
M 三〇〇 全集	鐵道交通全書 東京春秋社 昭和十二年	二二〇六
鐵道交通全書	東京春秋社 昭和十二年	二二〇六
第二十卷 電氣鐵道工事	森田重彦著	二二〇六
新法學全集	東京日本評論社 昭和十二年	二二〇六
第二十三卷 非訟事件手續法	岡村玄治著	二二〇六
第二十六卷 平時國際法(第二部)	横山喜三郎著	二二〇六
第二十七卷 國籍法	實方正雄著	二二〇六
第二十八卷 海法	鳥賀陽然良著	二二〇六
第二十九卷 鐵業法	美濃部達吉著	二二〇六
日本コンツェルン全書	東京春秋社 昭和十二年	二二〇六

家族制度全集

中川善之助編 昭和十二
東京 河出書房

第四卷 住友コンツェルン讀本 西野善與作著
第十三卷 電力コンツェルン讀本 三宅晴輝著

第一部 史論篇

第一卷 婚姻

婚姻史概説
自然法的婚姻法
日本結婚風俗史
一夫一婦制論
妻

中川善之助著
中川善之助著
大間知篤三著
三木清著
玉城肇著
宮澤俊義著
田岡良一著
石崎政一郎著
花岡止郎著
木村健助著
林謙著

婦人と政治
婦人の國際的保護
妻の所得の保護
ソヴェート婚姻法變遷
フランスに於ける内縁問題
結婚衛生學

中川善之助著
石崎政一郎著
石崎政一郎著
石崎政一郎著
石崎政一郎著
石崎政一郎著
石崎政一郎著
石崎政一郎著
石崎政一郎著
石崎政一郎著
石崎政一郎著
石崎政一郎著

第二卷 離婚

離婚史概説
別居制度論
イギリス別居制度論
自由離婚論
精神病離婚原因論
相對的離婚原因論
姦通及び重婚
離婚婦と未亡人
離婚狀と縁切寺
支那の婚姻及び離婚
婚姻離婚統計論

中川善之助著
石崎政一郎著
末延三三著
長谷川如是閑著
穂積重遠著
穂積重遠著
風早八十二著
三宅正太郎著
穂積重遠著
牧野巖著
玉城肇著

第二部 法律篇

第一卷 婚姻

婚姻法概説
結婚
婚姻同意
妻の無能力
日常家事代理權
内縁
失踪と婚姻
婚姻と訴訟
國際婚姻法
民法改正要綱解説
(序説及び婚姻)

中川善之助著
廣瀨嘉雄著
菅山道夫著
石川文次郎著
根本松男著
小石壽夫著
末川洪太郎著
大森太著
江川英夫著
穂積重遠著

第二卷 離婚

離婚法概説
協議離婚論
列例に現はれた離婚原因
夫の姦通
離婚による損害賠償
離婚後の扶養義務
離婚手續
離婚子の監護
國際離婚法
民法改正要綱解説
(離婚及び養子縁組)

中川善之助著
宮崎孝治郎著
穂積重遠著
穂積重遠著
勝本正晃著
福山四郎著
青藤秀夫著
齊藤英夫著
江川英夫著
穂積重遠著

大百科事典 平凡社編 昭和十二
東京 平凡社

M六〇〇 辭書類

第十二卷 第一册
第十三卷 第二册
第十三卷 第一册

一三〇九三
一三〇九三
一三二二三

第十三卷 第二册

M六六〇 辭書—法律

新法學辭典 上、下卷 米川 博編 昭和十二
東京 日本評論社

岩 波法律學小辭典 我妻 榮等共編 昭和十二
東京 岩波書店

M六七〇 辭書—歴史・地理

東洋歴史大辭典 平凡社編 昭和十二
東京 平凡社

第五卷 シンソータン

新 大人名辭典 平凡社編 昭和十二
東京 平凡社

第四卷 タカーナン

日本地名大辭典 日本書房編 昭和十二
東京 日本書房

第一卷 アーエ

二二二三

二八〇六

一三〇六四

二八〇八

一三〇九六

一三〇五四

海軍公報 第三千二百七十二號

昭和十三年二月二十一日(月)
海軍大臣官房

○通牒

軍務二第四二號

昭和十三年二月十九日

海軍省軍務局長

吳鎮守府 第一、第二艦隊 參謀長殿

外國船内地不開港場寄港ノ件通牒

外國船内地不開港場寄港出願ニ對シ今般別表ノ通免狀
交付ノ旨通牒有之候
(別表一葉添)

○雜款

○宿所並電話

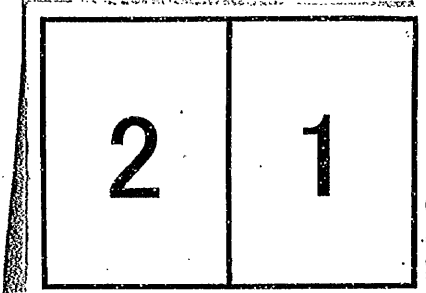
海軍艦政本部部員 海軍大佐原忠一宅(澁谷區幡ヶ谷
本町一ノ八)

四谷 (35) 八一〇五番

海軍公報 第三千二百七十二號 昭和十三年二月二十一日

(別表一葉添)八一

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	不開港場寄港免状要領
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

不開港場寄港免狀要領

(昭和十三年二月二十一日公報別表)

番 號	船 名	國 籍	種 類	及 船 主 氏 名	及 船 長 氏 名	噸 數	網 具 ノ 裝 置	橋 ノ 數	寄 港 ノ 目 的	航 路	寄 港 地 名
第一九一號	ビクソン號	英 國	帆 船	英國人 シェー、エフ、 ドラモンド	同 右	七 噸	スループ	一 本	娛 樂	大阪灣ヨリ瀬戸内海ヲ經テ 大分縣ニ至ル各港埠	兵 庫 縣 尼ヶ崎、鳴尾、今津、西ノ宮、 打出、若屋、深江、青木、 魚崎、住吉、御影、須磨、 塩屋、垂水、舞子、明石、 藤江、江井ヶ島、二見、 魚住、八家、白濱、妻籠、 飾磨、網子、岩見、坂越、 赤穂、男鹿島、家島、西島、 坊勢島、黒島、志筑、佐野、 假屋岩屋、野島、宮島、重津、 尾崎、那家、江井、新在家
第一九二號	ゼチス號	同 上	同 上	英國人 ゼー、エフ、 ゼームス	同 右	一 二 噸	フッター	同 上	同 上	同 上	兵 庫 縣 同上
第一九三號	ネルユース號	同 上	同 上	英國人 エス、デー、 スタンフオード	同 右	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	兵 庫 縣 同上
第一九四號	ソールナー號	同 上	同 上	英國人 シー、アール、 ジャクソン	同 右	一 一 噸	バーマザンカッター	同 上	同 上	同 上	兵 庫 縣 同上
第一九五號	大名號	同 上	同 上	英國人 ダヴリユー、 イー、ベル	同 右	七 噸	カッター	同 上	同 上	同 上	兵 庫 縣 同上
											大 阪 府 堺、岸和田、佐野、貝塚、 住吉、濱寺、大津
											岡 山 縣 日坐、片上、牛窓、小串、 鹿久居島、大分府島、曾島、 鴻島、長島、前島、黒島、 大島、朝日、西大寺、岡山、 妹尾、八濱、日比、味野、 下津井、玉島、笠岡、 眞鍋島、北木島、白石島、 大高島、神島、片島、福島、 黒崎、長尾、青島、黄島、 井島、六日島、六島、 大飛島、小飛島
											香 川 縣 高松、坂田、宇多津、丸亀、 多度津、觀音寺、小豆島、 豊島、瀬石島、廣島、 佐柳島、高見島、手島、 柏島、志度、栗島、引田、 安戸、松原、三本松、津田、 小田、井島、本島、屋島、 古高松、湯元、香西、 下笠井、男木島、女木島、 直島
											愛 媛 縣 新居濱、壬生川、小郡、 馬刀濱、菊間、北條、 大館島、大島、興居島、 三津濱、長濱、高井神島、 津島、小島、小安居島、 安居島、野郎那島、踏月島、 中島、怒和島、津和地島、 山利島、二神島、波止濱、 今治
											廣 島 縣 宮島、福山、鞆、松永、 百島、大崎下島、仙酔島、 田島、向島
											山 口 縣 屋代島、重津、重積、 三田尻、平野島、長島、 佐倉島、秋穂、牛島、 觀島、向島、中ノ關
											福 岡 縣 宇之島港
											大 分 縣 別府、宇江、姫島
											但シ軍港要港規則又 ハ要塞地帯法ニ依リ 禁止又ハ制限セラレ タル地域ヲ除ク
有効期間	昭和三十二年二月十九日	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	自昭和十三年二月二十一日 至同十三年五月二十四日
許可年月日	昭和三十二年二月十九日	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	昭和三十二年二月十九日

一 本船ハ帝國法令條約ヲ遵守スルハ勿論表面記載ノ各港ニ於テ警察規則及各種港則ヲ遵守スヘシ
二 本船ハ、可寄タノドモ警察官等ノ長メニ航行シ其ノ航行ヲ受クヘシ

寄港地名	有效期間	許可年月日	航行心得 (免狀裏面)
香川縣 高松、坂田、宇多津、丸亀、多度津、觀音寺、小豆島、豊島、櫛石島、廣島、佐柳島、高見島、手島、柏島、志度、栗島、引田、安戸、松原、三本松、津田、小川、井島、本島、屋島、古高松、湯元、香西、下笠井、男木島、女木島、直島	香川縣同上	同 上	<p>一 本船ハ帝國法令條約ヲ遵守スルハ勿論表面記載ノ各港ニ於テ警察規則及各種港則ヲ遵守スヘシ</p> <p>二 本免狀ハ何時タリトモ當該官吏ノ求メニ應ジ其ノ検査ヲ受クヘシ</p> <p>三 本船ハ本免狀記載ノ目的外ニ使用スヘカラス殊ニ表面記載ノ各港間ニ於テ貨物旅客ノ運搬ヲ爲スヘカラス</p> <p>四 每航行ニ於ケル巡航日時ヲ豫定シ就航前本船所有者ノ住所ヲ管轄スル地方長官ニ届出ツヘシ巡航日時ヲ著シク變更シタルトキ亦同シ</p> <p>五 每航行ニ於ケル就航前本船各員及船員以外ノ乗船者ノ氏名、国籍、住所及職業ヲ前項ノ地方長官ニ届出ツヘシ</p> <p>六 本免狀ニ記載セル船長ヲ變更セムトスルトキ又ハ船長以外ノ者ヲシテ其ノ職ヲ執ラシメムトスルトキハ豫メ第四項ノ地方長官ニ届出ツヘシ</p> <p>七 瀬戸内海ノ航行ニ付テハ大阪府佐野ト兵庫縣志筑、兵庫縣佛崎ト香川縣引田、愛媛縣長濱ト大分縣鶴崎、山口縣植生ト福岡縣椎田ヲ結フ線外ヲ航行スヘカラス</p> <p>八 廣島縣及愛媛縣海面中三原西端、因ノ島、弓削島(以上東端)、伯方島、大三島、大崎上島、三角島、豊島、尾久比島、上黒島、小館場島、横島(以上南端)、大黒神島、小黒神島、小那沙美島、津久根島(以上西端)及五日市ヲ連ヌル線内ニ立入ルヘカラス</p> <p>九 山口縣海面中彫良島南端、端島西端、保高島北端、小柱島、續島、特半島(以上東端)ヲ連ヌル線内、赤崎、大津島南端、洲島東端、仙島洲ヲ連ヌル線及其ノ延長内並島田川、笠戸島火振崎、岩島南端、蛇島西端ヲ連ヌル線及其ノ延長内ニ立入ルヘカラス但シ徳山港域ハ此ノ限ニ在ラス</p> <p>一〇 本航行心得ニ違背スルトキハ直ニ特許ヲ取消スヘシ</p> <p>一一 特許期間満了ノトキ又ハ特許ヲ取消サレタルトキハ直ニ第四項ノ地方長官ヲ通シ本免狀ヲ返納スヘシ</p> <p>一二 本船ハ出帆前地方廳ノ検閲ヲ受クヘシ又陸海軍ニ於テ必要ト認ムルトキハ隨時検閲スルコトアルヘシ</p>
愛媛縣 新居濱、壬生川、小部、馬刀洞、菊間、北條、大館場島、大島、興居島、三津濱、長濱、高井神島、津島、小島、小安居島、安居島、野郎那島、陸月島、中島、怒和島、津和地島、山利島、二神島、波止濱、今治	愛媛縣同上	同 上	
廣島縣 宮島、福山、鞆、松永、百島、大崎下島、仙酔島、田島、向島	廣島縣同上	同 上	
山口縣 屋代島、室津、室積、三田尻、平郷島、長島、佐合島、秋穂、牛島、祝島、向島、中ノ關	山口縣同上	同 上	
福岡縣 宇之島港	福岡縣同上	同 上	
大分縣 別府、宇江、姫島	大分縣同上	同 上	
但シ軍港要港規則又ハ要塞地帯法ニ依リ禁止又ハ制限セラレタル地域ヲ除ク			

0987

海軍公報 第三千二百七十三號

昭和十三年二月二十二日(火)
海軍大臣官房

○通牒

航本第六四四號

海軍航空機基本部品制式中左ノ通改正ス

昭和十三年二月十四日

海軍航空本部長

一、「海空No.一九四注油金具」ノ次ニ別紙

「海空No.一九五
海空No.一九六

機體用單列球軸受」及「海空No.一九七
海空No.一九八 機體用單列調心

型球軸受」ヲ加フ

別紙ハ所要ノ向ニ之ヲ配付ス

海軍公報 第三千二百七十三號 昭和十三年二月二十二日

八三

海軍公報 號外

昭和十三年二月二十二日(火)
海軍大臣官房

○通牒

官房第八二二號

昭和十三年二月十八日

海軍省 副官

各廳長殿

防空通信規則制定ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シ別記ノ通依頼有之候ニ付防空通信ノ回
滑ナル疏通ニ關シ可然御取計相成度

(別記)

電業第一二四號

昭和十三年一月二十九日

遞信次官

海軍次官殿

防空通信規則制定ニ關スル件

今般遞信省令第九號ヲ以テ防空通信規則制定セラレ昭
和十三年二月十日ヨリ實施ノコトニ本月二十八日附官

海軍諸例
則登載

報ヲ以テ公布相成候處防空通信ハ其ノ國土防衛上ノ重
要性ニ鑑ミ特ニ最優先送達無料取扱ヲ原則トスルコト
ト相成候ニ付テハ本規則ノ運用上防空通信ノ利用ヲ濫
ルガ如キコト有之候節ハ一般公衆通信ノ受クル影響甚
大ナルノミナラズ有事ニ於ケル他ノ重要通信ノ疏通ニ
モ重大ナル支障ヲ生ズル虞有之候ニ付此際爲念貴管下
防空機關ニ對シ特ニ左記事項御通達ト共ニ遞信官署ト
ノ連絡ヲ密ニシ以テ防空通信ノ回滑ナル疏通ニ協調相
成様可然御配意相煩度此段得貴意候

記

一 防空通信規則ニ依ル電報又ハ通話ノ利用ハ防空實
施上直接必要ナル通信ニ限リ且電氣通信機關ニ依ル
ニアラザレバ其ノ用ヲ辨シ得ザルモノニ嚴ニ限定ス
ルコト

海軍公報 號外

二 電文ハ簡明ニ記載シ又通話ハ簡潔ヲ旨トスルコト
 三 防空通信規則ニ依ル優先取扱ニ依リ通信目的ヲ達シ得ル場合ハ常ニ之ヲ活用スルコトトシ電話回線ノ專用ハ必要已ムヲ得ザル限度ニ止ムルコト
 四 防空ノ訓練ヲ行フ場合ニ於テ公衆通信機關ノ參加ヲ必要トスル場合ハ遅クモ當該訓練實施ニ週間前迄ニ其ノ期日、期間、實施區域及訓練ノ要綱ヲ所轄遞信局長ニ通知スルコト
 尙當該訓練ニ直接必要ナル通信ニ付防空通信規則ヲ準用スルヲ必要ト認ムルトキハ其ノ都度之ガ準用方告示スル見込トス

(別紙遞信公報抜萃)

遞信省令第九號

防空通信規則左ノ通定ム

昭和十三年一月二十八日

遞信大臣 永井柳太郎

防空通信規則

第一條 防空通信ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル
 第二條 防空通信トハ戰時又ハ事變ニ際シ防空ノ實施ニ直接必要ナル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信ニシテ關係陸海軍官憲、關係官公署及之

等ノ命ヲ受ケ防空ノ實施ニ從事スル者相互間ニ發受スルモノヲ謂フ

第三條 防空通信ハ左ノ三種トス

一 警報 防空警報ヲ防空警報發令官又ハ通信官署ヨリ通報スル通信

二 情報 防空監視ノ事務ニ從事スル者ヨリ航空機ノ行動ヲ報告スル通信

三 指揮連絡報 防空機關相互間ニ於ケル指揮及當該指揮ニ對スル措置報告等ニシテ緊急ヲ要スル通信

第四條 警報ハ最先順位ヲ以テ之ヲ取扱フ

情報ハ警報ニ次グ先順位ヲ以テ之ヲ取扱フ

指揮連絡報ハ至急官報又ハ至急通話ト同一順位ヲ以テ之ヲ取扱フ

第五條 防空電報ハ電報取扱時間ニ拘ラズ之ヲ取扱フ

第六條 電話官署警報又ハ情報ノ取扱上必要アリト認ムルトキハ他ノ通話ヲ中斷スルコトアルベシ

第七條 防空通信ヲ發スル者ハ其ノ請求ノ際第三條ノ種別ヲ申出ヅベシ

第八條 防空通信ハ無料トス

防空通信ノ爲必要ナル加入又ハ專用通話ニ關スル料

金ハ之ヲ特定又ハ免除スルコトアルベシ

第九條 公衆通信ヲ取扱ハザル私設又ハ官應用ノ電信、電話、無線電信若ハ無線電話ヲシテ防空通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ旨ヲ當該施設者ニ通知ス

第十條 防空通信ノ取扱ヲ爲ス私設又ハ官應用ノ電信、電話、無線電信若ハ無線電話ハ其ノ專用通信ニ優先シ防空通信ヲ取扱フベシ但シ人命財産ノ安全ニ關シ緊急ヲ要スル専用通信ハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 第九條ノ通知ヲ受ケタル私設又ハ官應用ノ無線電信若ハ無線電話ハ其ノ通信執務時間ニ拘ラズ防空通信ノ取扱ヲ爲スベシ

第十二條 電信法第二條第四號、無線電信法第二條第三號、官應用電信電話規程第一條第四號又ハ官應用無線電信無線電話規則第一條第三號ニ依ル施設ニシテ第九條ノ規定ニ依リ防空通信ノ取扱ヲ爲スモノハ私設電信私設無線電信公衆通信取扱規則第三條及第十一條ノ規定ニ拘ラズ託送取扱ヲ爲スコトヲ得

第十三條 私設又ハ官應用ノ電信、電話、無線電信若ハ無線電話ニ於テ取扱ヒタル防空通信ニ對シテハ取扱費ヲ支給セス

第十四條 遞信大臣ハ防空通信上必要アリト認ムルトキハ私設又ハ官應用ノ電信、電話ノ設備ノ變更、使用ノ制限若ハ停止ヲ命ズルコトアルベシ

第十五條 本令ニ規定ナキ事項ハ電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ關スル一般ノ規定ニ依ル

第十六條 防空ノ訓練ニ際シ遞信大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ別ニ告示スル所ニ依リ本令ノ規定ヲ準用ス

附則
本令ハ昭和十三年二月十日ヨリ之ヲ施行ス
公達第百二十七號

遞信局、通信官署
防空通信取扱規程左ノ通定ム
昭和十三年一月二十九日
遞信大臣 永井柳太郎

防空通信取扱規程
目次
第一章 總則
第二章 防空電報
第一節 電信又ハ電話ニ依ル取扱
第二節 無線電信又ハ無線電話ニ依ル取扱

海軍公報 號外

第三章 防空通信

第一節 電話ニ依ル取扱

第二節 無線電話ニ依ル取扱

第四章 加入電話及専用電話ニ關スル料金

第五章 防空訓練通信

附則

第一章 總 則

第一條 防空通信ニ關シテハ別ニ定ムル場合ヲ除クノ外本規程ニ依リ之ヲ處理スベシ

第二條 防空通信ノ取扱ハ正確迅速ヲ旨トシ其ノ取扱上知得シタル事項ハ特ニ秘密ヲ嚴守スベシ

第三條 電信局所又ハ電話局所ハ常ニ防空通信關係回線及機器ノ状態ニ注意シ特ニ警報通信用等ノ特殊装置ニ付テハ臨時點檢又ハ試驗ヲ行フベシ

第四條 防空通信ノ取扱ニ關シテハ關係防空機關ト緊密ナル連絡ヲ保持シ其ノ圓滑ナル疏通ニ遺憾ナキヲ期スベシ

第五條 防空通信ハ一般ノ電報又ハ通話ノ取扱時間外ニ於テ空ク其ノ取扱ヲ爲サザル局所ト雖モ出來得ル限リ臨機之ヲ取扱フベシ無線電信局所ニシテ電報取扱時間中ニ於テ無線電報ノ取扱ヲ爲サザルモノニ付

亦同ジ

第六條 警報トシテ取扱フ通信ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノトス

一 防空警報發令官ヨリ防空警報下令ノ通知ヲ受ケタル電信局所又ハ電話局所ガ所轄遞信局長ノ定ムル傳達系統ニ從ヒ他ノ電信局所又ハ電話局所ニ當該防空警報ヲ傳達スル電報又ハ通話

二 防空警報發令官ヨリ防空機關ニ對シ防空警報ノ下令ヲ通告スル通話

三 防空警報ヲ入手シタル電信局所又ハ電話局所ヨリ第十三條ノ規定ニ依ル警報受領者ニ對シ當該防空警報ヲ傳達スル通話其ノ他ノ通知

第七條 警報ヲ分チテ左ノ四種トス

一 警戒警報 敵航空機ノ來襲ノ虞アル場合發スルモノ

二 警戒警報解除 敵航空機ノ來襲ノ虞ナキニ至リタル場合發スルモノ

三 空襲警報 敵航空機ノ來襲ノ危險アル場合發スルモノ

四 空襲警報解除 敵航空機ノ來襲ナキニ至リタル場合發スルモノ

第八條 情報トシテ取扱フ通信ハ航空機ヲ發見シタル場合ニ於テ防空監視ノ事務ニ従事スル者ヨリ上級防空機關ニ對シ又ハ第十四條ノ規定ニ依ル局所ヨリ防空機關ニ對シ當該發見所名若ハ發見位置、發見時刻、進行方向、機種、機數等ヲ通報スル電報又ハ通話トス

第九條 指揮連絡報トシテ取扱フ通信ハ防空ノ爲ニスル用兵作戦、燈火管制、監視、消防、防毒、避難又ハ救護ニ關シ防空機關ノ指揮及當該指揮ニ對スル措置報告ノ爲發スル電報又ハ通話竝特ニ防空實施上緊急ヲ要スル戦況、被害狀況及氣象ヲ通報スル電報又ハ通話トス

第十條 警報傳達系統ハ所轄遞信局長ニ於テ豫メ之ヲ決定シ關係電信局所又ハ電話局所ニ通達スベシ此ノ場合ニ於テ當該傳達系統中ニ他ノ遞信局管内ノ電信局所又ハ電話局所ヲ含マシムル必要アルトキハ關係遞信局長ニ協議ノ上之ヲ決定スベシ

第十一條 電信局所又ハ電話局所防空警報發令官ヨリ防空警報下令ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ左ノ區別ニ依ル略號ヲ以テ適宜ノ用紙ニ之ヲ書取リ反復校正シタル上領諾ノ旨ヲ告グ受領時刻及當務者名ヲ記載

シ直ニ警報傳達系統ニ依リ之ヲ傳達スベシ

警戒警報	略號
警戒警報解除	ケハ
空襲警報	ケカ
空襲警報解除	クハ
空襲警戒解除	クカ

前項ノ場合ニ於テ警報發令區域ヲ冠稱シ來リタルトキハ其ノ區域名略號ヲ冠記スベシ

第十二條 警報發令區域名ノ略號ハ所轄遞信局長ニ於テ豫メ之ヲ決定シ關係電信局所又ハ電話局所ニ通達スベシ此ノ場合當該區域ガ二以上ノ遞信局管内ニ涉ルモノニ付テハ關係遞信局長協議ノ上之ヲ決定スベシ

第十三條 電信局所又ハ電話局所警報ヲ入手シタルトキハ警報受領者ニ對シ當該警報ヲ電話其ノ他便宜ノ方法ニ依リ速報スベシ

前項ノ警報受領者ハ當該電信局所長又ハ電話局所長ニ於テ重要ナル防空機關又ハ之ニ準ズル者ノ申出ヲ俟テ豫メ決定シ置クベシ

第十四條 海岸局及航空局竝特ニ指定スル電信局所及電話局所ニ於テ敵航空機ヲ發見シタルトキハ第八條

ニ定ムル通報事項ヲ防空機關ニ速報スベシ
 前項ノ防空機關名及通知方法（電信、電話、無線電信又ハ無線電信ニ依ル通報ノ區別）
 所轄遞信局長ニ於テ關係局所別ニ豫メ之ヲ決定シ當該局所ニ通達スベシ

第十五條 遞信局長私設又ハ官應用ノ電信、電話、無線電信若ハ無線電話ヲシテ防空通信ヲ取扱ハシムルノ要アリト認ムルトキハ遞信大臣ノ名ニ於テ之ヲ防空通信ニ供用スベシ此ノ場合ニ於テハ其ノ要旨ヲ遞信大臣ニ報告スベシ

第十六條 遞信局長前條ニ依リ私設又ハ官應用ノ電信、電話、無線電信若ハ無線電話ヲ防空通信ニ供用シタル場合ハ左ノ區別ニ依リ當該施設者ニ對シ事業用物品ヲ交付スベシ但シ當該遞信局長ニ於テ其ノ要ナシト認ムル場合ハ其ノ全部又ハ一部ノ交付ヲ省略スルヲ妨ゲズ

一 防空電報ヲ取扱フ者ニ對シ交付スベキ物品
 賴信紙(和文)、中繼紙(和文)、著送紙(和文)、黑色炭酸紙、遞信法規類纂(通信編上卷)及同訂正書

二 防空通信ヲ取扱フ者ニ對シ交付スベキ物品
 通話券、呼出券、呼出證、交換證、前納通話

券、遞信法規類纂(電話編)及同訂正書

第十七條 遞信局長ニ於テ防空通信上必要ト認ムル場合遞信大臣ノ指令ヲ俟ツ逸ナキトキハ遞信大臣ノ名ニ於テ其ノ管内ニ在ル私設又ハ官應用ノ電信、電話、無線電話若ハ無線電話ノ設備ノ變更、使用ノ制限若ハ停止ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ措置狀況ハ直ニ遞信大臣ニ之ヲ報告スベシ

第十八條 防空通信關係電報原書、通話券、交換證、呼出券、呼出證及前納通話券ハ適宜整理シ三ヶ月間當該電信局所又ハ電話局所ニ之ヲ保存スベシ

第十九條 防空通信取扱所（防空通信規則第九條ニ依リ防空通信トス）ニ於テハ特ニ指示スル場合ヲ除クノ外電報及通話ニ關スル一般ノ規定ニ依ル通信日附印ノ使用及統計其ノ他ノ報告ヲ要セズ

第二十條 防空通信ノ取扱上事故アリタルトキハ關係式紙ニ其ノ事由ヲ記載シ置クベシ

第二十一條 本規程ニ明文ナキ事項ハ一般公衆通信取扱ノ例ニ依リ之ヲ處理スベシ

第二章 防空電報

第一節 電信又ハ電話ニ依ル取扱

第二十二條 防空電報ハ左ノ順位ニヨリ又一般電報ト

混交スルトキハ下記ノ區別ニ依リ之ヲ送達スベシ

一 警報 一切ノ電報ニ優先ス

二 情報 非常電報及緊急軍事官報ニ優先ス

三 指揮連絡報 至急官報ト同順位トス

第二十三條 情報及指揮連絡報ノ種類ハ左ノ略號ヲ以テ之ヲ記載スベシ

略號

情報

指揮連絡法

第二十四條 防空電報ノ送信時刻、受信時刻及當務者名ハ當該式紙ニ相當欄ナキ場合ト雖共ノ餘白ニ之ヲ記載スベシ

第二十五條 防空電報ニ付テハ特ニ指示スル場合ヲ除クノ外件名表ノ使用竝通過番號及著信番號ノ記載ヲ省略スベシ

第二十六條 防空通信取扱所ニ於テハ情報及指揮連絡報ノ著信局所ノ指定ヲ省略スベシ

防空通信取扱所ヨリ前項ノ電報ヲ直接受信シタル電信局所防空通信取扱所ヲ除クニ於テハ其ノ著信局所名ヲ記載スベシ

第二十七條 防空通信取扱所ニ發著スル局報ハ當該取扱所ト直接通信ヲ爲ス電信局所防空通信取扱所ヲ除クニ於テ當該取扱所ニ代リ之ヲ處理スベシ但シ當該局報ニ用ツベキ發信局所名ハ當該防空通信取扱所名ヲ使用スベシ

第二十八條 電信機ニ依リ警報ヲ同時送信セントスルトキハ同時喚呼符號ニ代ヘ警報前置符號

———ヲ三回連送シテ關係局所ヲ同時ニ喚呼シタル後其ノ應答ヲ待タズ直ニ本文ヲ凡ソ五回緩送シ、又一局所ノミニ警報ヲ送信セントスルトキハ當該局所ヲ喚呼シタル後其ノ應答ヲ待チ「可受」ノ符號ニ代ヘ警報前置符號ヲ送り直ニ本文ヲ二回送信スベシ

前項ノ場合ニ於テ自局所ガ通信中ナルトキハ直ニ之ヲ中止シ、他局所ガ通信中又ハ喚呼中ナルトキハ直ニ其ノ通信又ハ喚呼ヲ遮止シ警報前置符號ヲ送り自局所ニ警報アルコトヲ知ラシムベシ

通信中又ハ喚呼中ノ局所ニ於テ前項ノ警報前置符號ヲ感知シタルトキハ直ニ其ノ通信又ハ喚呼ヲ中止スベシ

第二十九條 電話機ニ依リ警報ヲ同時送信セントスルトキハ同時喚呼符號ニ代ヘ警報信號———ヲ二回送出シテ關係局所ヲ同時ニ呼出シタル後其ノ應答ヲ待チ本文ヲ普通辭ノ稱呼ヲ以テ二回送信シ、又一局所ノ

ミニ警報ヲ送信セントスルトキハ當該局所ヲ呼出シ其ノ應答ヲ待テ直ニ本文ヲ普通辭ノ稱呼ヲ以テ二回送信スベシ

前項ノ場合ニ於テ自局所ガ通信中ナルトキハ直ニ之ヲ中止シ、他局所ガ通信中又ハ呼出中ナルトキハ直ニ其ノ通信又ハ呼出ヲ遮止シ警報信號ヲ送り自局所ニ警報アルコトヲ知ラシムベシ

通信中又ハ呼出中ノ局所ニ於テ前項ノ警報信號ヲ感知シタルトキハ直ニ其ノ通信又ハ呼出ヲ中止スベシ

第三十條 警報ハ適宜ノ用紙ニ之ヲ受信シ直ニ警報監査局ニ對シ受信證及自局所ノ呼出略號電話機ニ依ル場合ハ自局所名ヲ送出スベシ

警報監査局前項ノ規定ニ依ル受信證ノ送出ナキ局所アルトキハ該局所ヲ喚呼シ當該警報ヲ送信スベシ

第三十一條 前條ノ警報監査局ハ所轄遞信局長ニ於テ各回線別ニ豫メ之ヲ決定シ警報傳達系統ニ併セ關係局所ニ通進スベシ此ノ場合關係回線中ニ他ノ遞信局管内ノ局所アルトキハ關係遞信局長ニ協議ノ上之ヲ決定スベシ

第三十二條 電報賴信紙其ノ他ノ用紙ニ「情報」ト記載シ又ハ其ノ旨申出デ差出シタル電報ハ第八條ニ該

當スルモノナルヤヲ調査シ之ニ該當スト認ムルモノニ限リ領諾ノ旨ヲ告グ著信局所名、種類及受付時刻ヲ記載スベシ

第三十三條 情報ヲ送信セントスルトキハ對手局所ヲ喚呼シ其ノ應答ヲ待テ「可受」ノ符號ニ代ヘ情報符號「……」ヲ送り直ニ著信局所名、種類、名宛及本文ヲ送信スベシ

前項ノ場合ニ於テ自局所ガ通信中ナルトキハ直ニ之ヲ中止シ、他局所ガ通信中又ハ喚呼中ナルトキハ直ニ其ノ通信又ハ喚呼ヲ遮止シ情報符號ヲ送り電話機ニ依ル場合ハ「情報」トニ稱呼スベシ自局所ニ情報アルコトヲ知ラシムベシ

通信中又ハ喚呼中ノ局所ニ於テ前項ノ情報符號ヲ感知シタルトキハ直ニ其ノ通信又ハ喚呼ヲ中止スベシ

第三十四條 電報賴信紙餘白ニ「指揮連絡報」ト記載シ又ハ其ノ旨申出デ差出シタル電報ハ第九條ニ該當スルモノナルヤヲ調査シ之ニ該當スト認ムルモノニ限リ領諾ノ旨ヲ告グ著信局所名、種類及受付時刻ヲ記載スベシ

第三十五條 指揮連絡報ハ著信局所名、種類、發信局所名、名宛及本文ヲ送信スベシ

第二節 無線電信又ハ無線電話ニ依ル取扱

第三十六條 無線局ニ於テ防空通信符號——
 又ハ防空通信ノ發信ヲ感受シタルトキハ船舶又ハ航空機遭難通信ヲ除クノ外之ヲ妨害スル虞アル發振ヲ見合スベシ

第三十七條 防空電報ノ速達上必要アリト認ムルトキ又ハ已ムヲ得ザル事由アルトキハ本規程ニ拘ラズ有效ト認ムル電力並電波ノ型式及周波數ヲ使用スルヲ妨グズ

第三十八條 警報又ハ情報ヲ送信セントスル場合必要アリト認ムルトキハ略符號「QRT」及防空通信符號ヲ送リ他ノ無線通信ヲ停止セシムルコトヲ得但シ船舶又ハ航空機遭難通信ヲ停止セシムルコトヲ得ズ

第三十九條 陸上局ニ於テ警報ヲ入手シタルトキハ海岸局ニ在リテハA二電波五〇〇kc漁船ニ設置シタル船舶ニ在リテハA二電、局ヲ對手トスルモノニ波一三六四kc、航空局ニ在リテハA二電波三三三kcノ周波數ヲ以テ自局通信圈ニアル移動局ニ對シ左ノ順序ニ從ヒ沈黙時間中ト雖直ニ之ヲ放送シ爾後適宜之ヲ再放送スベシ

四 本文符號 一回
 五 本文普通略符號 二回
 陸上無線電信無線電話ニ於テ特定ノ無線電信無線電話ニ對シ特ニ警報傳達ノ要アリト認ムルトキハ緊急符號ヲ冠シ該無線電信無線電話ヲ呼出シ其ノ應答ヲ待チ一般ノ例ニ依リ當該警報ヲ送信スベシ

第四十條 移動局ニ於テ前條ノ呼出ヲ感知シタルトキハ該警報ヲ受信シ直ニ送話管、電話共ノ他適宜ノ方法ニ依リ船長、機長又ハ相當責任者ニ之ヲ通知スベシ

空襲警報ヲ受信シタルトキハ空襲警報解除ヲ受信スル迄成ルベク無休ニ聽守スベシ

第四十一條 移動局電報賴信紙共ノ他ノ用紙ノ餘白ニ「情報」ト記載シ又ハ其ノ旨申出デ差出シタル電報アルトキハ第八條ニ該當スルモノナルヤヲ調査シ之ニ該當スト認ムルモノニ限り領諾ノ旨ヲ告グベシ

第四十二條 移動局前條ニ依リ情報ヲ受付ケタルトキハ直ニ船舶局ニ在リテハA二又ハB電波五〇〇kcニ設置シタル船舶局ニ在リテハA二又ハB電波一三六四kc、航空機局ニ在リテハA二又ハB電波三三三kcノ周波數ニ依リ防空通信符號ヲ冠シ陸上局ヲ呼出シ其ノ應答ヲ待チ左ノ順序ニ依リ之

海軍公報 號外

九

ヲ送信スベシ

一 對手呼出符號 一回

二 自局名前置符號 一回

三 自局呼出符號 一回

四 本文符號 一回

五 情 報 二回

第四十三條 陸上局ニ於テ前條ノ情報ヲ受信シタルト

キハ第十四條ニ定ムル防空機關ニ之ヲ速報スベシ

前項ノ通報ニシテ電報ニ依ルモノハ著信局所名、種

類及受付時刻ヲ記載シ第三十三條ニ依リ、通話ニ依

ルモノハ情報通話ノ例ニ依リ、又無線電信又ハ無線

電話ニ依リ防空機關ニ直接通報スルモノハ前條ノ例

ニ依リ之ヲ送達スベシ此ノ場合ニ於テハ當該式紙ノ

餘白ニ該情報ヲ發信シタル船舶又ハ航空機ノ名稱ヲ

記載シ置クベシ

第四十四條 普通辭ヲ以テ記載シタル指揮連絡報ヲ無

線電信又ハ無線電話ニ依リ送信スルトキハ其ノ本文

ハ末尾ノ文字ヨリ逆ニ送信スベシ

前項ノ電報ハ其ノ本文ヲ翻書シタル上配達、交付又

ハ有線電信系上若ハ有線電話系上ノ傳送ヲ爲スベシ

第四十五條 移動局ニ於テ指揮連絡報ヲ受信シタルト

キハ直ニ船長、機長又ハ相當責任者ニ之ヲ交付スベシ

第四十六條 無線方位測定機ヲ有スル無線局ニ於テ敵

航空機ノ無線電信又ハ無線電話ノ發振ヲ感受シタル

トキハ直ニ其ノ方位ヲ測定シ移動局ニ在リテハ陸上

局へ、陸上局ニ在リテハ第十四條ニ定ムル防空機關

ニ之ヲ速報スル等機宜ノ措置ヲ講ズベシ

前項ノ通報ハ情報ニ準ジ之ヲ取扱フベシ

第四十七條 第二十二條乃至第二十七條、第三十三條

及第三十五條ノ規定ハ艦船又ハ航空機ニ發著スル防

空電報ニ、第二十二條乃至第二十七條及第三十二條

乃至第三十五條ノ規定ハ無線電信又ハ無線電話ニ依

リ取扱フ其ノ他ノ防空電報ニ付之ヲ準用ス

第四十八條 本節ノ規定ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ

外海軍艦船、海軍通信隊、防備衛所又ハ望樓ト無線

局トノ間ノ無線電信ニ依ル防空通信ニ付之ヲ準用ス

第三章 防空通話

第一節 電話ニ依ル取扱

第四十九條 防空通話ハ左ノ順位ニ依リ又一般通話ト

混交スルトキハ下記ノ區別ニ依リ之ヲ取扱フベシ

一 警 報 一切ノ通話ニ優先ス

二 情 報 豫約通話ニ優先ス

三 指揮連絡法 至急通話及夜間至急通話ト同順位トス

第五十條 防空通話ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ種別ヲ確メタル上關係交換證又ハ通話券ノ相當欄ニ左ノ略號ニ依リ其ノ種別ヲ記入スベシ

略號

一 警 報 ケイ

二 情 報 ゼウ

三 指揮連絡報 シキ

第五十一條 防空通話ノ請求ヲ受付ケタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ後位局ニ之ヲ通報スベシ

一 警 報 警報何局何番

二 情 報 情報何局何番

三 指揮連絡報 指揮連絡報何局何番

第五十二條 警報又ハ情報ハ機械設備上其ノ他已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外直通接続ノ取扱ヲ爲スベシ

第五十三條 防空通話ヲ接続セントスルトキハ先ヅ防空通話ナル旨ヲ告ゲタル上其ノ接続ヲ爲スベシ

第五十四條 警報ノ取扱ニ際シ關係回線又ハ關係電話ヲ警報以外ノ通話ニ使用中ナルトキハ當該通話者ニ

防空警報アル旨ヲ告ゲ其ノ接続ヲ中斷スベシ

第五十五條 情報ノ取扱ニ際シ關係回線又ハ關係電話ヲ警報若ハ情報以外ノ通話ニ使用中ナルトキハ當該通話者ニ防空情報アル旨ヲ告ゲ其ノ接続ヲ中斷スベシ

第五十六條 前二條ノ規定ニ依リ中斷シタル通話ハ機械設備上已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外當該防空通話終了後速ニ再ビ接続シ通話時數ハ中斷前後ヲ通算シテ之ヲ決定シ關係交換證ノ備考欄又ハ關係通話券ノ郵便切手貼付欄ニ中斷及再開時刻ヲ適宜記入シ置クベシ

豫約通話、定時通話又ハ國際通話ヲ中斷シタル場合ハ前項ノ規定ニ拘ラズ回線障礙ノ例ニ依リ之ヲ處理スベシ

第五十七條 防空通話ニ關シテハ一通話時終了毎ニ爲スベキ通話時數ノ注意ハ之ヲ省略スベシ

第五十八條 電話ニ依リ第六條第一號ノ警報ヲ傳達スル場合ハ關係電話局所ヲ呼出シタル上當該警報ヲ普通辭ノ稱呼ヲ以テ二回通報スベシ

第五十九條 電話局所前條ニ依ル警報ノ傳達ヲ受ケタルトキハ第十一條ノ例ニ依リ適宜ノ用紙ニ之ヲ書取

リ反復校正シタル上領諾ノ旨ヲ告グベシ

第六十條 防空通話ノ爲ニスル呼出ハ總テ無料トシ左

ニ依ルノ外無料呼出ノ例ニ準ジ之ヲ處理スベシ

一 無料呼出ノ請求ヲ受ケタルトキハ防空通信發受

信資格者相互間ニ於ケル呼出ナルコトヲ確メタ

ル上之ヲ受付クルコト

二 無料前納通話券ニ依リ通話ノ請求ヲ受ケタルト

キハ被呼者ガ呼出請求者トノ間ニ通話スルモノ

ナル場合ニ限り之ヲ取扱フコト

第二節 無線電話ニ依ル取扱

第六十一條 防空船舶通話ハ左ノ順位ニ依リ又一般船

船通話ト混交スルトキハ下記ノ區別ニ依リ之ヲ取扱

フベシ

一 警 報 船舶遭難通話ト同順位トス

二 情 報 船舶緊急通話及船舶安全通話船舶
電話通話規則第六
條ニ依ル通話トスニ優先ス

三 指揮連絡報 至急通話ト同順位トス

第六十二條 第三十六條乃至第四十條、第四十三條、

第四十六條及第五十條乃至第六十條ノ規定ハ防空船

船通話ニ付之ヲ準用ス

第六十三條 無線電話局所ニ於テ無線電話ニ依リ取扱

フ防空通話ニシテ防空船舶通話ニアラザルモノノ取

扱ニ關シテハ第三十六條乃至第三十八條及前節ノ規

定ヲ準用ス

第四章 加入電話及専用電話ニ關スル料金

第六十四條 防空監視哨ニ臨時ニ設置スル電話ノ加入

申込又ハ電話ノ加入ニ付テハ電話線設備料ハ之ヲ免

除スベシ

第六十五條 防空機關相互間ニ於テ防空通信ノ用ニ供

スル爲臨時ニ施設スル市内専用電話ニ付テハ回線設

備料及機械設備料ハ之ヲ免除スベシ防空機關ヲ一方

ノ電話機設置場所トスルモノト雖所轄遞信局長ニ於

テ防空通信ノ専用ニ供スルモノト認ムルモノニ付亦

同シ

第六十六條 防空通信ノ用ニ供スル爲施設スル市外電

話回線ノ専用ニ關スル料金ハ別ニ通牒スル所ニ依ル

ベシ

第五章 防空訓練通信

第六十七條 防空通信規則第十六條ニ依リ防空ノ訓練

ニ際シ防空通信規則ヲ準用スル場合ハ第十七條、第

五十四條乃至第五十六條及第六十四條ヲ除クノ外本

規定ヲ準用ス

第六十八條 遞信局長防空ノ訓練ニ際シ當該防空訓練ヲ主宰スル防空機關ヨリ之ガ實施ニ關シ協議ヲ受ケタルトキハ當該訓練ノ實施期間、實施區域及計畫概要並防空通信規則準用ノ要否ニ關スル意見ヲ速ニ遞信大臣ニ報告スベシ

附則

本公達ハ昭和十三年二月十日ヨリ之ヲ施行ス

○電業第一二四號

昭和十三年一月二十九日

電務局

遞信局、通信官署

防空通信取扱ニ關スル件

今般省令第九號ヲ以テ防空通信規則、公達第二百二十七號ヲ以テ防空通信取扱規程制定セラレ二月十日ヨリ實施ノコトニ別途公布相成候處右ハ防空ノ重大性ニ鑑ミ之ガ實施上必要ナル通信ノ疏通ヲ一層迅速圓滑ナラシメ以テ國土防衛ニ違算ナキヲ期セントスル趣旨ニ有之候ニ付テハ左記事項諒知ノ上關係規定ニ付充分研究相成取扱上遺漏ナキヲ期セラレ度
追テ本省令及公達ノ實施ニ依リ之ニ牴觸スル從來ノ

通牒等ハ自然消滅ノ義ト諒知相成度

第一 一般的事項

一 防空通信ハ警報、情報及指揮連絡報ノ三種トシ戰時又ハ事變ニ際シ防空機關相互間ニ發受スルモノニ限定セララルモノニシテ防空機關ニ非ザル一般公衆ハ防空通信ノ請求ヲ爲シ得ザルモノナルコト
二 防空通信規則以下規則ト稱ス及防空通信取扱規程以下規程ト稱スニ於テ防空機關トハ左ノ機關ヲ指稱スルモノナルコト

(イ) 陸軍關係

陸軍省、參謀本部、防衛司令部、師團司令部、要塞司令部、地區防衛隊司令部、防空監視隊本部、防空監視哨、防空戰鬥部隊

(ロ)

海軍省、軍令部、鎮守府、要港部、海兵團、航空隊、海軍通信隊、防備隊、防備衛所、望樓、海軍港務部、對空見張所、海軍艦船

(ハ)

內務省、道府縣廳、警察署（駐在所及派出所ヲ含ム）、消防署、防空監視隊本部、防空監視哨、防空法第三條ニ依ル防空計畫設定者、市

- (二) 區町村役場
其ノ他
- 三 官廳、無線電信機ヲ裝置スル船舶又ハ航空機
規則及規程ニ於テ防空警報發令官トハ當該防空實
施區域ノ防衛ヲ擔任スル防衛司令官、師團長、要
塞司令官、鎮守府司令長官、要港部司令官及之等
ノ指定スル者ヲ指稱スルモノナルコト
- 四 警報傳達系統ハ電信回線ニ依ルヲ原則トシ電信回
線ニ依ル連絡ナキ場合又ハ電信電話共用線ニ依ル
場合ハ電話回線ニ依ル方針ヲ以テ之ヲ設定スルコ
ト
- 五 警報ノ傳達ニ付テハ可及的同時送信ヲ爲シ得ル様
特殊裝置ヲ爲スコトニ考究スルコト
- 六 警報受領者ハ軍衛、道府縣廳、市區町村役場、警
察署ヲ除クノ外ハ事務上支障ナキ範圍ニ於テ其ノ
申出ヲ受理決定シ必要ニ應ジ之ガ傳達順位ヲ豫メ
定メ置クコト
- 七 警報受領者ニ對スル警報傳達ノ方法ハ電話ニ依ル
ヲ原則トシ之ニ依リ得ザルモノハ警報受領者ニ於
テ受報者ヲ窓口ニ派遣セシムル等特殊ノ事情アル
モノヲ除クノ外配達ニ依ル傳達ヲ爲サザルコト
- 八 規程第五條ノ局所ニ於ケル時間外取扱ニ付テハ之
ガ爲特ニ服務時間ノ延伸等ヲ要スル義ニ非ザルモ
防空通信ノ重要性ニ鑑ミ出來得ル限り之ガ取扱ニ
應ズル趣旨ナルコト
- 九 電信局所又ハ電話局所ニ於テ當該通信ノ一部ガ防
空通信ノ範圍ヲ逸脱スルヤニ認ムル場合ハ一應其
ノ取扱ヲ了シ事後當該防空機關ニ之ヲ注意スルト
共ニ必要アル場合ハ所轄遞信局長ニ其ノ要旨ヲ報
告スルコト
- 十 防空通信ハ深夜又ハ晝間繁忙時等ニ於テ突如發信
セラルル場合アルベキニ付人員配置及服務方法ニ
關シ特ニ配意シ取扱上齟齬ナキヲ期スルコト
- 十一 警察事務ノ專用ニ供スル爲施設シタル官廳用ノ
電信、電話、無線電信又ハ無線電話ハ警察官憲相
互間ニ發受スル防空ノ實施上必要ナル通信ヲ當然
爲シ得ル義ニ付此限度ニ於テハ規則第九條ニ依ル
供用ヲ爲スノ要ナキコト
- 尙私設又ハ官廳用ノ無線電信中船舶無線電信ト交
信ノ目的ヲ以テ陸上ニ施設シタルモノ又ハ船舶若
ハ航空機ニ施設シタルモノニシテ現ニ公衆通信ニ
供用シ居ラザルモノハ全部之ヲ防空通信ニ供用ス

- ルコト
- 十二 防空通信取扱所ニ對シ交付スベキ事業用物品ハ一應規定ニ例示シタルモ當該取扱所ノ實情ニ應ジ適宜之ヲ省略スルモ差支ナキコト
 - 十三 防空通信取扱所ニ對シテハ成ルベク所轄遞信局ニ於テ防空通信ノ取扱ニ關スル平易ナル解説書様ノモノヲ作成配布シ其ノ取扱ニ齟齬ナカラシムルコト
 - 十四 防空通信關係書類ハ敷理後三ヶ月間自局所ニ保存スルモノナルガ右期間ヲ經過シタルモノハ物品ニ關スル一般規定ニ依リ處理スルコト
 - 十五 規程第十四條ニ依ル局所ノ防室監視ハ義務的ニ非ザルモ事務上支障ナキ範圍ニ於テ成ルベク敵機ノ來襲ニ注意シ若シ敵機又ハ敵機ノ疑アル航空機ヲ發見シタルトキハ直ニ所定ノ防空機關ニ之ヲ通報スルコト
 - 十六 規程ニ於テ無線局、陸上局、海岸局、航空局、移動局、船舶局又ハ航空機局ト指稱セル局中ニハ既設局ノ外規則第九條ニ依ル防空通信取扱所告示^{特ニ}ヲ省略スルヲモ含ム義ナルコト
 - 十七 防空通信ニ關シ規則、規程其ノ他ニ依リ遞信局長ニ於テ專決シタル事項並防空通信ノ利用狀況及警報傳達ノ實況等ハ遞信局ニ於テ適宜之ヲ取纏メ當分ノ内共ノ都度電務局ニ報告スルコト
- 第二 防空電報
- 一 防空電報ハ當分ノ内和文電報ノミ取扱フモノナルニ付私設又ハ官廳用ノ電信、電話、無線電信若ハ無線電話ヲ防空通信ニ供用スル場合交付スル物品ハ和文電報關係ノモノニ限リタルコト
 - 二 防空通信取扱所ト直接連絡ヲ爲ス一般接續局所ニ於テハ左ノ方法ニ依ルコト
 - (イ) 取扱所發信防空電報ニ對シ其ノ著信局所名ヲ指定スルコト
 - (ロ) 取扱所ニ發著スル局報ハ當該取扱所ニ代リ照復シ自局原書トシテ之ヲ處理スルコト此ノ場合發受信人ニ通知ヲ要シ又ハ電報原書ニ校正若ハ補足等ヲ要スル場合ハ其ノ要旨ヲ取扱所ニ通知スルコト
 - (ハ) 前各號ノ外取扱所ニ於ケル電報取扱方ニ付テハ必要ニ應ジ之ヲ指導スルコト
 - 三 警報ハ隨時發令セラルルモノナルニ付警報送來回線ニ對スル人員配置ニハ特ニ留意シ苟モ其ノ受信

- 四 ヲ洩スガ如キコトナキ様充分配意スルコト
警報監査局ニ指定セラレタル局所ハ特ニ警報ノ送
來ニ注意シ受信證ノ送出ナキ局所ニ對シテハ直ニ
送信方取計ヒ可及的速ニ全局所ヘノ傳達ヲ全カラ
シムル様配意スルコト
- 五 情報及指揮連絡報ノ取扱ニ方リテハ他ノ電報トノ
送達順位ノ識別ヲ容易ナラシムル爲適宜ノ方法ヲ講
ジ取扱上齟齬ヲ生ゼシメザル様特ニ配意スルコト
指揮連絡報ハ至急官報ト同順位ノ外國電報及外國
無線電報トモ當然同順位ナルコト
- 七 海岸局又ハ航空局ニ於テ警報ヲ入手シタルトキハ
其ノ圈内ニ在ル船舶局又ハ航空機局ニ對シ最大電
力ヲ以テ之ヲ放送シ（此ノ場合本文略號ハ之ヲ普
通辭ニ翻譯シ放送スルモノトス）必要アラバ爾後
數回反復放送スル等其ノ周知ニ付テ特ニ配意スル
コト
- 八 船舶局及航空機局ハ警報ノ放送ニ最善ノ注意ヲ拂
ヒ其ノ受信ニ努ムルコト
- 九 警報ハ海岸局又ハ航空局ヨリ放送セララルノミナ
ラズ時トシテ軍艦ヨリ通報セララル場合アルベキ
ニ付注意スルコト

- 十 防空情報通信規約（昭和十二年九月一日附電無第
二七〇七號通牒）中通信方法ニ關スル第三條以下
ノ規定ハ規則及規程ノ實施ト共ニ之ヲ廢止セラ
ルベキコト
- 第三 防空通話
- 一 防空市外通話ヲ利用スベキ區間及其ノ電話番號ハ
遞信局ニ於テ防空機關ト協議シ成ルベク之ヲ特定
セシムルコト
- 二 警報通話ヲ請求シ得ルモノハ防空警報發令官ニ限
ルモノナルコト
- 三 通話局ニ於テ防空通話ノ請求ヲ受ケタルトキハ正
當發信資格者ナルコトヲ確メタル上受付クルコト
度數料金制施行地ノ市内通話ヲ警報又ハ情報取扱
上ノ必要ニ依リ中斷シタルトキ之ヲ再繼續スルコ
ト困難ナル場合ハ電話規則第五十三條第三號ニ準
ジ當該中斷通話ヲ課金通話度數中ニ算入セザルコ
ト
- 五 公衆電話所發信ノ市内通話ヲ中斷シタル場合ハ適
宜ノ用紙ニ中斷及再開時刻ヲ記錄シ置クコト
- 六 中斷シタル通話ニシテ機械設備上再繼續シ得ザリ
シモノト雖後刻關係通話者ヨリノ申出ニ依リ中斷

- 七 ノ事實ヲ確認シ得タルモノハ再接続スルコト
規則第八條第一項ノ規定ハ度數料ノ徴收ニ影響ナ
キコト
- 八 防空通話ノ爲ノ呼出ハ無料呼出ノ例ニ準ジ處理ス
ルモ其ノ取扱範圍ハ同一加入區域内ニ限定セラ
ルモノニハ非ザルコト（無料電話規程第八條第二
號參照）
- 九 指揮連絡報ハ國際通話ニ優先セザルコト
無線電話ニ依ル防空通話ニハ出來得ル限り祕話裝
置ヲ使用スルコト
- 第四 防空訓練通信
- 一 防空訓練通信ニ對シ規則及規程ヲ準用スル場合ハ
大體ニ於テ道府縣以上ノ地域ニ亘リ訓練ヲ實施ス
ル場合又ハ之ニ準ズル大規模ノ訓練ニ限ルコトト
シ其ノ都度之ヲ告示スル方針ナルコト